

科目名	生徒・進路指導論	科目責任者	吉川 成司
課題と試験担当教員			
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC254		

■ 科目概要

学校生活を通じて、「もっと学びたい」と感じた経験は、一時的かも知れませんが、部分的かも知れませんが、あるのではないのでしょうか。しかし、「もっと生徒指導（生活指導）は受けたい」という気持ちになったことはあるのでしょうか。

これは生徒指導の実際やイメージによるところが大きいと思われる。その生徒指導のイメージとは、できるだけ受けたくないネガティブなもの、つまり、厳格な指導、校則による取り締まり、問題行動対策といったものでしょう。しかし、そのような指導ができるようになるためだけに、この科目を学ぶのでしょうか。決してそうではないはず。

この科目では、本来の、そして同時に新たな生徒指導のあり方について考えることが焦点となります。それは、ポジティブな生徒指導であると言えます。生徒指導の充実とは、そのまま「厳格化」だけを意味するわけではないのです。

生徒指導の積極的なあり方を考えていく上では意味のあることですが、ネガティブ、ポジティブというと、どちらかという二分法の発想になってしまい、議論が単純になってしまいかねません。

さらに生徒指導の実践に結びつけていくには、「鳥の眼」と「虫の眼」が大事なのではないのでしょうか。「鳥瞰図（ちょうかんず）」という言葉がありますが、「鳥の眼」とは、大所高所から物事を見渡す広く冷静な視野です。これに対して「虫の眼」とは、息づかいを感じるような距離感で心のひだに分け入るような、焦点的にして細やかな温かいまなざしです。

鳥の眼は、広く歴史的・社会的な背景への展望をもったり、理論的な視野をふまえることだけではありません。たとえば、生徒個人の特定の行動だけに目を奪われるのではなく、そういう行動を起こさせてしまう背景にも目を配ることもそうです。虫の眼も、重箱の隅を突くようなものではなく、「生徒一人ひとりの人間を観るまなざし」というように、普遍的な人間観に根ざした態度であってこそ、一人ひとりの生徒とのふれあいも可能になるのではないのでしょうか。

■ 到達目標

生徒指導を中心に、進路指導・キャリア教育について、その基本的な考え方を身につけることが到達目標です。そのためにテキストの学習を通じてレポート作成と試験で、もしくはスクーリングでの学習（メディア授業を含む）を通じて試験で、それぞれ一定量の論理的な文章にまとめられるようになることが求められます。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
序章	学校における生徒指導全般について ー学校改革の視点からー 「生徒・進路指導論」、「生徒指導提要」の紹介を含めて
第1章	生徒指導の意義と原理
第2章 第9章	教育課程と生徒指導(キャリア教育)
第4章	生徒指導の全校体制
第8章	学校・家庭・地域の連携
序章、第1・2・ 4・8・9章	生徒指導の考え方と進め方（第1～5回目の総括）
第1章 第2章	生徒指導の意義と原理ならびに教育課程との関係
第3章	児童生徒の心理と児童生徒理解
第6章 I	生徒指導の進め方：児童生徒全体への指導

学習範囲 該当する章など	学習内容
第6章 II	生徒指導の進め方：個別の課題を抱える児童生徒への指導（1）
第6章 II	生徒指導の進め方：個別の課題を抱える児童生徒への指導（2）
第5章	教育相談の考え方と進め方（1）
第5章	教育相談の考え方と進め方（2）
第10章	特別支援教育の考え方と進め方
	試験

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	生徒指導の基本的な考え方や進め方について論述を求める。
レポート	生徒指導の考え方と進め方についてその基本的な理解を問う。

■ 評価方法

○科目試験：70%

○レポート：30%

■ 教科書

書名：生徒・進路指導論

著者名：吉川成司編著

出版社名：創大通信教育部

出版年：平25.4

版：初版

刷：

ISBN：978-4-86302-057-3

■ 参考書

- ・著者名：文部科学省
- ・書名：生徒指導提要
- ・出版社：教育図書
- ・出版年および版：2010年 初版

■ 履修上のアドバイス

■ 自習時間

<テキスト学習の場合>

テキスト科目として学習する場合は、テキスト学習、2通のレポート作成、試験準備で合計30時間程度の自習が望まれます。

■ 担当者のプロフィール

吉川成司：教職大学院教授、教職研究科長

長島明純：教職大学院教授、教職キャリアセンター副センター長